

肢体しょうがい学生の避難について

【経緯と目的】授業再開（5/9～）にあわせて避難マニュアルを作成し、その通り避難ができるか下肢しょうがいのある学生 13 名に確認したところ、電動車いすの学生 B・C（以下詳細）がマニュアル通りに避難が難しい状況が聞き取りにてわかった。そこで、しょうがい学生と話し合いを進めるなかで、しょうがい学生自身が意識をして、自身が周囲とともに安全に避難するためにはどうするか、減災ソーシャルワーク授業担当の吉村千恵先生のアドバイスのもと、しょうがい学生 B、C と今回の授業に関心を示した A の 3 名をモデルとして個別の避難計画書作成を行うに至った。

【対象】しょうがい学生支援サポーターを利用しているしょうがい学生（電動車いすを利用）の学生 3 名と減災ソーシャルワーク履修生とサポーター

【方法】減災ソーシャルワークの履修生がしょうがい学生に聴きとり

- ・地震の際どうだったか
- ・避難計画に必要な項目作成

地震、火事、洪水、噴火などパターンに応じた避難を検討。また誰に連絡をとるか、言語しょうがいがある場合はシートを持っておくなど、避難においてどういう道具が必要かなどを検討

【グループ】吉村先生が調整し 3 グループを作成

しょうがい学生（車いす種類）	受講生	サポーター	初回集合日
A（手動車いす）	3 名	1 名	6 月 9 日（木）5 限目
B（リクライニング付電動車いす）	3 名	1 名	6 月 10 日（金）5 限目
C（リクライニング付電動車いす）	3 名	2 名	6 月 15 日（水）4 限目

※初回実施場所は、しょうがい学生支援室。支援室職員（三島・権藤）も参加

【授業計画】

- ・授業の一環のため、初回以降はそれぞれが集まって計画を作成。
- ・7 月半ばに関係者に集ってもらい避難訓練を実施…総務課やインクルーシブ学生支援センター職員ほか、上記サポーター以外にも参加を呼びかける
- ・7 月末には避難計画が完成予定。
- ・避難計画のワークシート作成後は、上記しょうがい学生以外にも使用し、今後の避難時において活用。

【実施内容】

○各初回集合日に本震の際の様子やしょうがい状況などの確認を行う。

しょうがい学生 B、C が避難には担架が必要と再確認。しょうがい学生支援室にて担架の購入をすすめる。

○6 月 17 日（金）5 限目

A 班が各棟の階段幅を知るために、実際に 7 号館（外階段）、11 号館、12 号館、学生会館に行き、車いすの昇り降りを実施。何人が手伝ったらスムーズか、男女の割合や車いすの持つ場所などを確認。また 11 号館の階段は、3 か所あるが場所によって幅や踊り場の形状が異なることを発見。11 号館で被災したらどの階段を使って避難したら降りやすいかなどを確認した。今後、個別避難計画に入れ込む予定。



7 号館外階段



11 号館出入口側階段

※Aさんは普段は電動アシスト付車いすを使っていたが、震災後余震が続くため、万が一のことも考え手動の車いすを利用している。今回は手動の車いすを4～5名で階段昇降を行った。

○6 月 21 日（火）発注していた担架（8 個）が届く。担架を用いた避難訓練も検討。



2016 年しょうがい学生の災害時避難計画の策定について
(減災ソーシャルワーク演習 I)

担当：吉村千恵

1. 経緯と目的

2011 年に起きた東日本大震災以降、「災害弱者」の避難について様々な場所で検討をされている。本学では、2014 年 12 月に「しょうがい者と災害を考える学習会」を開催ししょうがい学生、サポーター、減災 SW 受講生が参加した。「視覚しょうがい・電動車いす・手動車いす」の 3 グループで災害時に何が困るか、またその対応策をグループワークにて検討した。

2015 年度の授業では、地域内の要支援者の避難計画と定期的な見直し、事前のコミュニケーションの重要性などを学修した。さらに実際の災害を想定した避難訓練をしょうがい学生 4 名とサポーターで行った。

学外では熊本県健康福祉課・地域住民と合同で災害時要支援者の避難計画の策定・訓練実施・見直し作業を阿蘇市と八代市で実施した。本年度も、別の地域で同様の取り組みを行う予定であったが、2016 年 4 月の熊本地震をうけ、状況が変化し延期となった。

学生の意識も変化した。友人にしょうがいのある学生や修学支援サポーターとしてかかわる学生も多く、「学内にいる時にもし地震がきたら」という不安な声や問題意識がでてきた。そこで、避難等に関する個別計画の見直しや作成の必要性を感じ、具体的な避難計画の作成を演習の課題とすることにした。

今回、他大学の実績を参考にしようとしたがめずらしい取り組みであり、熊本学園大学で策定できれば、全国的にも先進的な取り組みになるのではないと思われる。

2. 授業での取り組み

- ① しょうがい学生支援室に協力を依頼し、重度しょうがいのある学生に協力を依頼する。必要性を感じた学生 3 名が、個別計画の作成に協力してくれることになった。
- ② 演習の受講学生たちは、3 つのグループに分かれ、内閣府が想定する個別計画について学んだあと、その個別計画をもとに 3 人の重度しょうがいのある学生の個別避難計画を作成する。その際に、当事者からのヒアリング、しょうがい理解、大学の建物理解(階段の広さ等)などを行った。
- ③ 当事者にとっても安心・納得がいく方法を共に考え、避難計画案(第 1 次)を作成する。
- ④ 避難計画案をもとに本人も含めて実際にやってみる。

(日時：2016 年 7 月 16 日 15 時～17 時、場所：11 号館 114A 教室)

- ・避難に携わるのは、担当グループ以外のメンバーが行う。3 人、それぞれにて実施。
- 実際にやってみて、その後に全員で意見交換を実施し、問題点や危険性などを再検討する。
- ⑤ 関係課や他の学生からのアドバイスやコメントを再検討し、最終的な避難計画を作成する。

3. 関係各課にお願いしたいこと

- ・7 月 16 日実施へのご参加及びコメント
- ・作成した避難計画の共有
- ・今後、しょうがいのある学生の避難計画作成の参考にして頂きたい。

減災ソーシャルワーク 避難訓練計画書(実施編)

2016年7月16日(土)15時10分～ 114A教室

参加者：減災SW担当教諭(吉村先生)、履修学生12名、学生サポーター1名、しょうがい学生3名、総務課長(井上)、しょうがい学生支援室(権藤) 計19名

【目的】地震が起きた際に、しょうがい学生とボランティアの人がいかに安全に避難できるか。個々の避難マニュアルを用いて何処でも誰とでも避難するにはどんな情報が必要であり、見てわかるかたち(文章・写真)とはどんなものなのか。

避難訓練実施【共通】

- ・それぞれの避難計画書に沿って4階から3階まで降りる。
- ・避難計画書は、しょうがい学生本人、教員が各1部持っている。
- ・計画を作成したメンバーは、避難の際の移動には参加せず、計画書通りにスムーズに実施されているかを見て記録し、写真や文章などの改善点をあげる。
- ・地震発生→余震おさまる→教員がボランティアをしてくれる学生を特定するため声掛け(必要人数)(ドアを押さえる担当1名)→希望学生挙手→学生ボランティア決定→避難開始
- ・1つの班の訓練実施終了後に、意見交換を行う。そこで、しょうがい学生及び参加者の感想や意見を述べ、改善点などについて議論する。
- ・今回の避難訓練実施において議論した点を含め班ごとに再検討した後、個々の最終版の避難マニュアルを作成し教員に提出する。



① A班 (実施所要時間 5分46秒)

Aさんの意見・感想

・車いすごとの避難がいい。情報伝達はうまくいっていた。1チーム6名のうち3名以上はできれば男性がいい。

A班の意見・感想

Q ボランティアに入った女性でハイヒールを履いていたらどうするか？

A 足元がしっかりしている学生に代わってもらう。

その他の人の意見・感想

・今回、車いすを持ったのは女性が多く、女性だけで車いすごと避難するのであれば、階段の踊り場で休憩をしないと無理がある。

Q 階段が狭いことを考えると全員男性がいいのではないかな。

A 避難マニュアルには、4名中3名以上は男性と記載する。もしくは、本人が全員男性を希望するのであればそれをはっきり書く。

Q 避難マニュアルに車いすで掴んではいけない箇所を書いてはどうか？掴む場所にシールをつけるのはどうか？

A Aさん→車いすにシールはつけない。これで外出もするから。

Q 介助者(ボランティア)の足がもつれるので、1人が先に降りて危ない所がないか、(声掛けの人とは別に)確認した方がいいのではないかな。

A 交代要員がする。

Q 交代要員は先に行くか、後ろから行くかどうか。

A 先に降りて声掛けをする。

・車いすの前輪が階段に引っかかると危ない。車いすごとの避難の場合、神輿型の体勢になり肩で担ぐとよい。

・階段を降りるときにかけ声がなかった。誰がかけ声をするのか。あと、下で担いでいる人が「後、何段です」と言ってくれれば助かる。

・後部転倒防止の部分を必ずたたむ。



② B班 (実施所要時間 7分30秒)

Bさんの意見・感想

・11号館の階段ははじめて降りたので怖かった。最初の方は、足が少しはみ出っていたので、降りている時に身体にずれがあって不安があった。担架で持ち上げてもらった後は、頭の方は2人いたので安定していた。ベルトの位置や頭の向きの説明を聞いてもらえる人が1人ほしい。それで体勢を整えてほしい。車イスよりは担架で避難した方がいい。11号館の階段は狭いし持ってもらえる人の人数も限られるので体力がいる。みなさんの安全も考えて担架のほうが良いと思う。

B班メンバーの意見・感想

Q 頭にクッションを置いたらいいのではないかな？

A Bさん→クッションを置くと首を圧迫するので置かないほうが良い。

Q ベルトの位置を、どこまでかけるか、何本必要かな？

A 担架についている緑のベルトはマジックが短い。ベルトの位置と本数は要検討。

Q 車イスを持ってくれる人の人数の変更が必要ではないかな？

A 車いす(2名→3名に変更)、テーブルを外すだけでなく荷物も持ってもら(1名)

追加→ドアを押さえる人(1名)

車いすごと避難する場合→ドアを押さえる1名以外に4名×交代要員4名 計9名必要

その他の人の意見・感想

Q 頭の方の肩ベルトを短く持つのはどうか。

A 担架が滑る素材なので平行にしないと身体が滑りずれる。

・階段の電気がつくようであればつける。

・身体のはずれは、背中と車いすの間にあてているクッションをはさみこんで埋める。その後ベルトで固定。

・できるだけ広いスペースを確保して車いすから担架に移乗する。例えば、廊下や出入口付近は他の学生も避難するので踏まれる、ぶつかる危険性がある。教室のテーブルやイスを寄せ、広い空間を確保するのもよいのではないか。

・ベルトは、担架の持ち手及び下に先に通しておく。

③ C 班 (実施所要時間 15 分)

C さんの意見・感想

B さんの時みたいにかける声かけの人がいるといい。担架を持つには3人は必要。最後の移乗の時は、パイプイスには座らず直接手動車いすに座りたい。もう1回、別の日に練習をしたい。

C 班の意見・感想

Q 身長が高くないこともあって担架に横になった時にお尻を真ん中にあわせると頭の位置が下の方にきてしまう。担架に移乗した時に身体全体の位置をどこにあわせるか。

A お尻の下にすべり止めを敷いてみる。後は担架のタスキ部分で調整できるかやってみる。

その他の人の意見・感想

Q 3人で担架をかかえていて足側を持っていたが、自分が足側をもっていることで頭側の人に負担がかかっているような気がする。2人で抱えた方がいいのではないか？

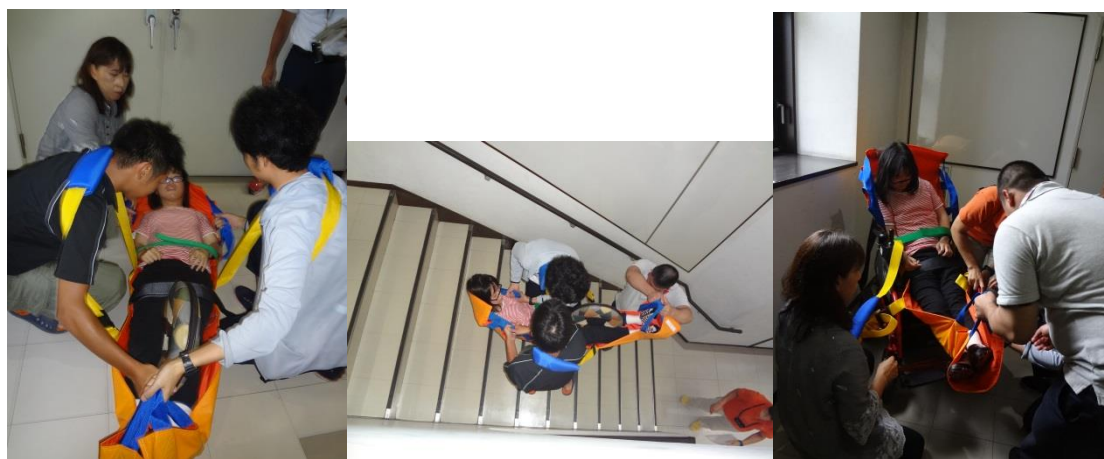
A 要検討。

Q Cさんが避難する時にボランティアは担架のところに集まり1人になっていた。手動に切り替えて誰かと一緒に担架に移乗する場所まで移動した方がいいのではないか？

A Cさん→手動に切り替えるとタイヤを動かすコツがあるので慣れない人だと逆に時間がかかる。電動で担架の場所まで移動した方が早いと思う。

Q 電動車イスからパイプイスに移乗した際の頭に空間ができる。どうするか？

A パイプイスが動くのでイスの足元部分を踏んでおく。誰かが背後にまわることで、Cさんの上体も支えることができ、イスが倒れないように防ぐこともできる。



大学側 要望、検討課題

- ・避難マニュアルは科目担当教員全員が授業の際に持ち歩いているとは限らない。情報システムの共有をどうするか。
- ・担架付属の緑色のベルト(マジック部分)が短いため、マジックを付け足してほしい。
- ・手順書をどこにつけるか。
- ・滑り止めをあらかじめ担架に入れておくのはどうか。
- ・黒ベルトは、担架とセットにしておくか、個人に必要な本数を貸出して持っていてもらうか。